

# 2つの新学部設置で 総合大学への道を 踏み出します

東京工科大学 学長 軽部征夫

取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1942年生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻博士課程修了。工学博士。米イリノイ大学博士研究員、東京工業大学教授、東京大学教授、東京工科大学バイオニクス学部長などを経て2009年より現職。

【大学プロフィール】1986年開学。コンピュータサイエンス学部、応用生物学部、メディア学部の3学部3学科体制。2010年4月、東京・蒲田の新キャンパスにデザイン学部（仮称）と医療保健学部（仮称）（看護学科、臨床工学科、理学療法学科、作業療法学科）を設置構想中。

本学は「実学主義」を掲げ、実社会で役立つ実践教育を行っています。ひたすら専門のみを教え込むものではありません。社会人として必要な教養を含め、広く基礎教育に触れてもらったうえで専門につなげていくのです。というのも技術革新の著しい昨今、大学での学びがいずれ時代遅れになることもあるでしょう。そんな時に問われるのは、専門を活かしながらも、柔軟な思考を持ち、いかに次のフェーズに移れるかということ。だからこそ学生をいたすために狭い専門領域に追い込み、融通の利かない人間に育てたくはないのです。われわれのいう実学主義とはまさにそこがポイント。単に実学を詰め込むわけではありません。そこにイズムがあることを強調しておきます。

こうした考え方が徹底されていることは、既存の3学部すべてがひとつの学部と学科で構成されていることからわかるでしょう。幅広い領域を扱うメディア学部でもあって複数の学科を設けず、メディアに関連する文系・理系芸術系にわたる基礎科目を学んだうえで、3年次からコースを選択するのです。メディア学部では、本学のコンピュータ教育という強みを活かした技術教育

を軸にコンテンツの制作も行います。感性の教育も不可欠となりますが、それを補うのが来年度に向けて設置を構想しているアート系の新学部「デザイン学部」です。同学部では美大志望者だけではなく、興味を持つてはいるがデザインにかかわる学習をしたことがないという学生も受け入れ、感性教育を徹底したうえでスキルを教えます。本学の特色である卒業後に向けての指導、就職支援もきめ細かく行うなど、実学主義に基づくデザイン教育という点で独特の学部となることでしょう。

同じく来年度は高齢化社会に対応するべく「医療保健学部」の設置も構想しています。医療機器の高度化が進む医療現場で即戦力足りうる、先端技術に強いコメディカルスタッフを育てます。

両学部とも「生活の質の向上と文化の発展に貢献する」という理念を具体化したものであり、実学主義に根ざす点でも本学らしい学部です。

86年に単科大学として出発した本学は今、総合大学への道を踏み出しました。こうした改革は伝統に縛られない若い大学だからこそそのもの。改革という名のエンジンを使い、われわれは成長を続けます。